

キリストの聖体 2014.6.22

イエスは命のパン

ヨハネ6章 51-58節

(そのとき、イエスはユダヤ人たちに言われた。)

「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きかすためのわたしの肉のことである。」

それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。イエスは言われた。

「はっきり言っておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」

聖体とは聖餐で食するパンとワインのことを差します。聖餐を聖体拝領とか聖体の秘跡ともいいます。言い方はさまざまですが、日本語に訳すことで違いがでてくるということもあるのでしょうか。ちょっときどってユ-カリストという人たちもいます。英語では聖餐、聖体のことそういいます。また sacrament という聖餐を含んだ儀礼全般を差す呼び方もあります。

ところで、ふつうに考えれば聖体の祝日ですから最後の晩餐のテキストをに
なるのですが、きょうのテキスト朗読はヨハネ6章後半です。6章は

「5000人の給食」関連の出来事が記されています。この奇跡は4つの福音書すべてに書いてありますが、ヨハネ福音書にだけ、その意味というか解説をイエス自身が語っています。それがきょうの朗読箇所です。34節で「**主よ、そのパンをいつもわたしたちにください**」と求めるユダヤ人たちに対して語りだします。

わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きかすためのわたしの肉のことである。(6:51)

このイエスのことばを受けてショックを受けたユダヤ人たちは議論を始めます。イエスはさらに追い討ちをかけるようにわたしの肉を食べ、わたしの血を飲むことがわたしによって生きることだと諭します。ユダヤ人は律法により「血を飲む」ことは禁じられています。とうとうユダヤ人たちはこのことばに躓きイエスから離れてしまいます。そして最終的には12人だけが残ります。(60-69節参照)

この6章でのユダヤ人とイエスのやりとりは4章のサマリアの女性とイエスの問答にも似ているところがあります。4章では水をめぐる問答がおこなわれていました。

イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」(4:13-15)

このあとイエスはあなたの夫を呼んで来なさいと命じ、女性は村に戻り人々にイエスがメシアだと証言します。6章の離反したユダヤ人たちとは対照的に4章のサマリアの村人たちはイエスを招き入れ、そして信じたという出来事が記されています。

最後の晩餐の席でイエスがパンを裂いて弟子たちに配りました。

イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。(6:11)

同じように、イエスはガリラヤで 5000 人もの人たちにパンを裂いてみんなを満腹させました。この満腹したというのは比喩的な表現であること、満腹したということは精神的に満たされた、永遠の命を受けた、と意味もありました。6 章後半のイエスの解説を聞けばこの比喩に気づきます。また 4 章のサマリアの女の水問答、6 章の 5000 人の給食をとおして、荒野でさまよったユダヤ人たちがメリバの泉で渴きを癒し、マナで飢えをしのでいたモーセの業績が記されている旧約聖書の記事を思い起こすこともできます。

わたしたちが聖書を読んで感動するというか、まったく本当のことだなあと思うことがあります。そのひとつには、比喩の意味が分かった時、あーあこれは本当だなあ、このことは自分にはわかったぞ、という感じになるのではないのでしょうか。

ところで、聖体、聖なる体、これはキリストの体のことでもあります。またキリストの体といえば教会でもあります。

教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。(エフェソ 1:23)

教会 = キリストの体 = 聖体 = パンとワイン、そういうことは教会 = パンとワイン？

こうやって並べてみるとだんだんこんがらがってきます。聖書を読んでいてわかったようなわからないような気持ちになることはしばしばあることです。そんなときに主日礼拝の中でパンとワインをいただける、神のめぐみをいただくことができる、具体的な形として、礼典（サクラメント）として受けられる。みことばだけでなくキリストの体、つまりパンとワインをいただくことができる。これはわたしたちにとって大いなる慰めであり、励ましです。わたしたちはみことばを聴くだけでなく、またその解説を聴く、説教を聴くだけではなく、聖餐（ユーカリスト）をとおして、パンとワインを通してキリストの体にあずかることができることができます。ひとりでも多くの方が

この神の恵みに招かれますように。
